



2021(仏暦2564)年 8月号 (第119号)

万行寺寺報

Mangyoji Jihō

発行
浄土真宗本願寺派 万行寺
住職 山崎信充
〒385-0003
長野県佐久市下平尾4 6 1 - 1
電話 0267-67-2460



■住職法話

お慈悲の中に^{じひ}見^{みまも}護られている

■浄土真宗 (新) 仏事のイロハ

■本願寺の本

絵物語 ^{しんらんしやうにんごえでん}親鸞聖人御絵伝

■編集後記

年忌法要表

1 周忌	2020(令和 2)年	23 回忌	1999(平成11)年
3 回忌	2019(令和 1)年	25 回忌	1997(平成 9)年
7 回忌	2015(平成27)年	27 回忌	1995(平成 7)年
13 回忌	2009(平成21)年	33 回忌	1989(平成 1)年
17 回忌	2005(平成17)年	50 回忌	1972(昭和47)年

住職 法話

お慈悲の中に見護られている

今月の法語

まあ、どくにちつても

お慈悲のゆたからさ

私も僧侶になり三十五年と
いう年月を重ねると、若気の
至りといった失敗談を思い起
こすことがあります。

二十代の頃、当時、私と同
世代の息子さんを不慮の事故
で亡くされたお宅に、毎月、
命日のお参りに行かせて頂い
ていた時の話です。いつもの
ように読経を終えて、法話を
進めていく言葉の中に、ご家

族の心情を傷つけてしまう一
言がありました。内容はひか
えておきますが、その場で
父様に指摘をされ深謝したこ
とが、今でも鮮明に思い出さ
れます。ご家族の心情もわか
らずに深く傷つけてしまった
ことは、当時の私には非常に
悔やまれた出来事でした。し
かし、そのご家族とは後々も
大変お世話になり、私の失敗
を機に突き動かしてくれた大
切な出遇いとなりました。

このように、ある一言で人
を傷つけてしまったとか、後
にそうなのではないかと疑念
が残るような失敗を機に、思
い通りにならない現実を学ん
で人生の歩みを進めていくも

のではないのでしょうか。
また、歌手中の島みゆきさ
ん「時代」の有名な歌詞の一
部です。

めぐるめぐるよ

時代はめぐる

別れと出会いを繰り返し

今日は倒れた旅人たちも

生まれ変わって歩き出すよ

まわるまわるよ

時代はまわる

別れと出会いを繰り返し

今日は倒れた旅人たちも

生まれ変わって歩き出すよ

ここでも対比する別れと出会
いという言葉を使って、人は
生まれ変わって歩き出すと誰
もが勇気づけられたのではな
いでしょうか。

私の失敗を「自分のせいだ」
で終わっていたとしたら、今
ごろ私の僧侶としての歩みを
止めていたと思われます。現
実を受け止めて、そこから生
き方を学んでいく出遇いを頂
いたことが、今の私の糧にな
っています。

今月の法語の「お慈悲の中」
とは、いつでもどこでもどん
な時でも、仏さまの光は人
間を決して見捨てずに照らし
続けてくださるということだ
す。あらためて振り返ると、
実は仏さまのお慈悲の中に
常に見護られて生かされてい
たのだと気づかされます。



浄土真宗

⑧ 仏事のイロハ

二、葬儀を行う

― 悲しみを超えて―

「葬儀の形態」

社葬から家族葬まで…

…

一口に葬儀と言っても、形態は様々です。大規模に営む社葬、団体葬から、近親者らごく少人数で行う家族葬や密葬（後で本葬を営む前の近親者の葬儀を指します）までありますが、これらはごき人や遺族の方々の人間関係が大きく関わってきます。社会的に影響が大きい人なら、それだけ多くの方々が参列しようと思えますし、高齢で亡くなれば、ともに人生を歩んだ友

人や同僚たちも先立ち、縁ある人は家族だけということになるかもしれません。

しかし、大事なことは、亡き人の死を悼む人がいる限り、それらの人々にも知らせ、ともに営んでいくのが、葬儀の望ましい姿だと言えましよう。「知らせるとかえって迷惑をかけるから」という遠慮は、葬儀の本義からすると疑問符が付きます。その方の死を悼み、心から手を合わせ



たいと思われる方を遠ざけることになりかねません。ともに悲しみ、いのちの大切さを、葬儀を通して皆が噛みしめていく時、日常の価値観を超えた厳粛で温かい何ものかが得られるはずです。それがまた絆となつて、遺族らを精神的にバックアップしていくことにもなるのです。

最近では遺族だけで宗教儀礼を行わず、火葬場へ直行する直葬（但し死後二十四時間は火葬できません）なるものや、通夜を省略した一日葬なるものも行われているようです。

しかし、いのちがなぜ尊いのかとか、大切なものを失くした者の辛さとか、自分のいのちの行く末が定まらない不安や恐怖とどう向き合い、超えていくかといった生きる上でとても大切なことは、直葬

や一日葬のような省略した方たちでは、少なくとも「葬」の心を無視したようなかたちでは、味わえないのではないのでしょうか。何より、縁ある人たちと悲しみを共感し、いのちの尊さを共有していくことができません。特に子どもにとって、葬儀をきちんと行うことは貴重な人生体験となります。ぜひ参列させてあげてください。

宗教儀礼である葬儀が、それらの大切なことを確認し、体感し、生きるこの目標と落ち着き所を見出させます。

ポイント

▼縁ある人たちと悲しみを共感し、いのちの尊さを共有していくことが葬儀の要

「浄土真宗 ⑧ 仏事のイロハ」 末本弘然著／本願寺出版社刊より

～本願寺の本～

「絵物語 親鸞聖人御絵伝-絵で見るご生涯とご事蹟-」

本願寺出版社／岡村喜史(監修) 1,100円(税込)

激動の時代を生き抜いた親鸞聖人のご生涯とそ
のみ教えを絵巻から読み解く。

本書は、浄土真宗の寺院において報恩講や御正
忌の際に内陣にお掛けする「御絵伝」と、その前で
拝読される『御伝鈔』の解説書です。

親鸞聖人の曾孫である本願寺第三代宗主・
覚如上人によって綴られた、図絵と詞書からなる
親鸞聖人の最初の伝記。浄土真宗の本山から一般

寺院まで各寺院が所蔵する「親鸞伝絵」。この系譜にある「親鸞聖人御絵伝」をオ
ールカラーの美しいグラビアで解説しております。(本願寺出版社HPより)



親鸞聖人御誕生850年 慶讃法要
立教開宗800年

Joint Celebration

850th Anniversary of Shinran Shonin's Birth & 800th Anniversary of the Establishment of the Jodo Shinshu Teaching

法要期日

2023(令和5)年

第1期 3月29日(水)～4月3日(月)
第2期 4月10日(月)～4月15日(土)

第3期 4月24日(月)～4月29日(土)
第4期 5月6日(土)～5月11日(木)
第5期 5月16日(火)～5月21日(日)

毎月16日はShinran's Day

親鸞聖人のご命日です ご参拝ください

浄土真宗本願寺派
龍谷山 本願寺

編集後記

先月、お寺のコピー機(複合機)が使用不能になりました。先月号の寺報発行に合わせて印刷をしていたところでした。◆この寺報の創刊に合わせて購入したものですから、十五年を超えて使っていたものです。メーカーの保守期間も過ぎ、既に生産終了している機種でした。よく働いてくれたと感謝する中で、慌ただしく買い換えの検討をして、今月号の発行に間に合いました。寺報を楽しみにされている皆様にはご迷惑をおかけ致しました。◆印刷もスムーズになり、あらためて発行にも意欲がわきます。

